



神戸市会議員 (中央区)

平木ひろみ

2013年 新春号
市会報告

平成24年第4回定例市会が、11月27日から12月5日まで開かれ、議案外質問を担当しました。表に掲載した質問項目の再質問で取り上げた内容をご報告します。

いずれも何度も質問で取り上げ続けている項目です。神戸の未来の発展のため、継続して取り組みます。

■ ポートアイランドの総合交通体系

Q ポートアイランドへの大学進出、医療産業都市の進展に併せてのポートアイランド2期への企業立地の進捗や神戸空港の開港などにより、ポートライナーの混雑状況は深刻な状況である。大学生が約8500人、医療産業都市には223社が進出し約5000人が働いているという現状は、すでに昼間人口は夜間人口15000人に比べて1万人以上多いという状況で、通勤通学時間帯のピーク時には住民は電車に乗ることもできないこともある。

神戸市は医療産業都市へのさらなる企業誘致を進めているが、これ以上の過剰な混雑は企業誘致やMICE誘致にも不利に働きかねない。また神戸空港利用者や中央市民病院をはじめとする病院利用者にも大変な負荷となる可能性があり、まさに「待ったなし」の状況である。

中央市民病院向けに三宮駅と病院を結ぶ直通バスの運行は一つの解決方法だと思うが、抜本的な対策も含め混雑緩和をどのように進めるのか、ポートアイランドの総合交通体系について、どう考えるのか伺いたい。

A 根本的には車両編成の大型化を図るしかないが、三ノ宮駅の問題があり車両編成を現状では増やせない。バスなどを補完的に使いながら、長期的な視点で進める。

■ 都心のアクセスの確保について

Q 「デザイン都市・神戸」の視点をもって都心ウォーターフロントエリアの再整備を行うに当たっては、都心部との南北アクセスの確保や、沿岸部東西の動線確保が大変重要である。動線の確保に向けては、シティーループの新ルート展開や、観光の目玉となるようなLRTの運行など、具体的な検討を進めるべきではないかと考えるがどうか。

A 都心ウォーターフロントの再整備については、HAT神戸から兵庫運河までをエリアと考えている。現状はバスが部分的に運行しているだけである。三宮駅からKIIITOまでは野外彫刻をたどっていくと着くというようなことも考えたい。

東西にLRTを走らせることになった時には、南北のアクセスを含めた回遊性のあるものにするのを検討したい。フラワーロードは様々なイベントでも使うので、その兼ね合いも含めて考えたい。

平木ひろみ事務所

〒650-0045
神戸市中央区港島1-1-9-407
TEL (078)303-1319
FAX (078)322-6161
MAIL hiromi-hiraki@kobe-minshu.jp
URL http://www.hirakihiromi.com

2013年もどうぞよろしくお願いたします。



委員 岩田よしあき



委員 川原田弘子

◆都市防災委員会



委員 大寺まり子



委員 藤原武光



委員 たじ裕規

◆産業港湾委員会



委員 人見誠



委員 池田りんたろう

◆企業建設委員会



委員 川内きよなお



委員 さきもと祐治

◆福祉環境委員会



委員 大井としひろ



副委員長 伊藤めぐみ

◆文教子ども委員会



委員 前島浩一



委員長 平木ひろみ

◆総務財政委員会

民主党神戸市会議員団 News

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 / TEL:078-322-5844 FAX:078-322-6161

第4回定例会 2013年度の重点予算要望を市長に質問

平木ひろみ議員(中央区)

平成23年度決算は、阪神淡路大震災以降初めて単年度黒字を計上したものの、市内の主要産業は依然として厳しい状況にある。これまでの行財政改革の実績は評価するが、今後の神戸の発展を考える時、世界の中の神戸を意識した視点を持って、世界との競争・交流を進めることができる、神戸の成長の芽を生み育てることが重要である。



1. 姉妹都市・友好都市・親善協力都市のあり方について

Q 双方の発展に資するよう目的を明確にするなど、新たな提携を模索していくべきでは？

A 国際化推進会議の意見も伺いながら、一大陸一都市の原則に拘らず新しい提携も検討する。

Q 震災で中断した職員の海外派遣にも力を入れるべきでは。

A 今年度、建築・土木の短期派遣から再開している。今後は、長期派遣も検討し国際的人材育成を図っていく。

2. 医療産業都市の推進について

Q 最先端の医療・研究施設、企業の集積が図られてきて一定の成果は見られるが、産業化や雇用拡大にどう具体的に結び付けていくのか？

A ライフサイエンス振興ビジョンの改定を行うことで、新しい道筋を明確にし、バイオメディカルクラスターの国内、アジアのトップランナーという地位を占めていきたい。

Q 将来に向けたプロジェクト推進の原動力となる人材面での基盤強化が必要不可欠ではないか？

A 現在も全市的に連携して機動的に取り組んでいる。今後は専門的人材の活用も含めて基盤強化を推進する。

3. 「デザイン都市・神戸」の推進について

Q 「デザイン都市・神戸」の視点で統一性のある魅力あるまちづくりを目指す再整備計画を具体的に示し、市民理解を得ながら将来展開を推進すべきではないか？

A リーディングエリアである都心・ウォーターフロントのデ

ザインに、まちづくり団体や臨海部の事業者、関連省庁との連携を図りながら取り組んでいく。

4. 国際都市神戸としての観光振興について

Q MICE^(*)を重要産業として位置づけ、誘致に取り組むことは神戸の未来にとって欠かせない施策である。都市間競争に勝ち抜くためには、コンベンションを効率的に開催できるコンベンションセンターの再構築や無線LAN整備など都市の総合力を高める必要があるのではないか？

A 外部の学識経験者等で構成される検討委員会を開催し、コンベンションセンターの基本構想を今年度中に策定する予定。無線LAN設置補助などはしているが、十分とは言えない。外国人受入戦略拠点事業において現況調査を行う予定であり今後の展開を検討する。

人見誠議員(北区)

1. 「空き家条例」(*2)について

Q 本市の条例案は、「建物の倒壊・破損のおそれ」のみを対象としているが、「樹木が繁茂している状態」なども対象に加えるべきでは？

A 今後とも他の法律・条例なども駆使し、関係機関・部局と連携しながら対応していきたい。



2. オールドタウンの活性化対策について

Q 再生のあり方や方向性について指針を示した上で、様々な手法を取り入れて民間活力を活かせるよう、神戸市が先導的役割を担うべきでは？

A 地域の実態、課題がそれぞれ異なっているので、まちの個性に応じて進めていくことが必要。UR・他の民間活用の事例を参考にし、余剰地の活用、施設誘致などで民間ノウハウも十分に活用してやっていきたい。また、教育・福祉・医療など、今の時代に必要な生活利便施設も加えていくことも考えていきたい。

*1「MICE」(マイス)とは…

Meeting(会議・研修・セミナー) Incentive tour(報奨・招待旅行) Conference(大会・学会・国際会議) Exhibition(展示会)の頭文字をとった造語。大人数が動くこと、消費額が大きいことから、各自治体が誘致に力を入れている。

*2「空き家条例」について…

老朽化し倒壊などの危険がある空き家について、防災・防犯面での不安の声が多数あることから、対策として、所有者に指導や勧告をしたり、勧告に従わない所有者の名前や住所を公表したりできるよう定めた条例改正案をまとめ、市民意見を反映後、来春の定例会に提案される予定。